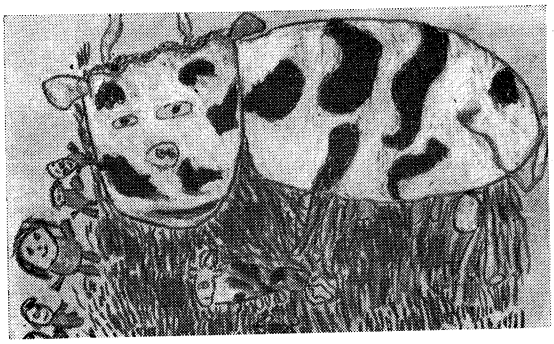
。計画的、継続的に指導をつづけてきた。

。絵の具の出し方、白と黒を両端に絵の具箱と同じ順序に、少量でもよいから全色を出す。

。絵の具の量　必要に応じて変わる筆先に半分位水を含ませて、ちょっと混ぜる位でよい。小さな場所とか空とか描こうとするものにより分量はかわってくる。

。筆の使い方　感情を表わすには色と筆のタッチしかない。目あてにそって筆のタッチが工夫できるようにさせペンキ塗りのような採色はさける。

。筆の洗い方　色に敏感な子に育てるために、水洗いの水は常にきれいにし、水洗いの仕切りを利用し、どれも同じく扱うのでなく、①筆あらい②ゆすぐ③ちょっと水をつけるなど使い分ける。



たのしくかく（1年生の作品）

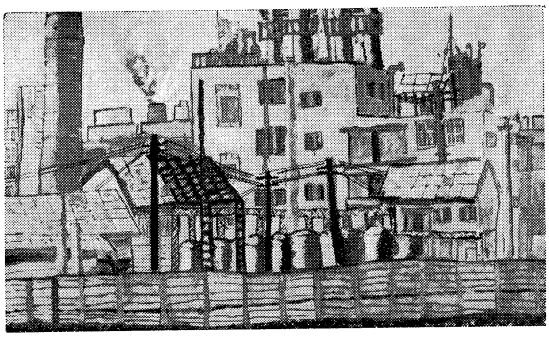
。あとしまつをしっかりとさせる。

。用具　低学年ではクレヨン・パスとの併用を工夫し、描材も画用紙、和紙、色画用紙、白ボールの裏などの工夫をすることが大切である。

⑥　教師の鑑賞眼を高め指導力の向上を図るため、研修を計画的にすすめ、できるだけ多くの展覧会に接し、「観る目」を培う。

。下絵の段階から共同で検討し、より子供らしい絵を求め指導に生かす。

。実技研修を通して技術を高める。



工　場（6年生の作品）

資料2　各月の題材例

月	題材	配慮したこと
5	花のある風景	○チューリップのように単純な花は選ばない。 ○パンジー、けいとう、桜草などの変化に豊んだものを選ぶ。 ○背景の処理、必らずしも校舎でなくてよい。 ○はじめに花をかき、あとで背景をかき加えていく。
7	物語の絵 オッペルと象	○話を単純化し、山場をくわしく読んでやる。 ○絵にかきたい場面を選ぶ。 ○象は、事前に調べておく。 ○象は筆で力強く下がきさせる。
10	建物	○場所を指定し、かきたいところをラフスケッチさせる。 ○かけない子には、形の特長のある場所をえらんでやる。 ○工場など離れた所はスライドにしておく ○クロッキーで立体をかき、建物の奥行きをつかませる。

二　おわりに

『自信をもった子供を育てたい』という願いで始められた研究であるが、参考作品にも表われているように各学年ブロックとも先に掲げた目標に迫ることができた。対外的なコンクールにも意欲的に出品できるようになり、入賞する者も増え、学校生活全般にも活気がみなぎるようになったことは大きな成果であった。それは教師の自信ともなった。

今後の問題としては、

。指導のパターン化や技術的な作品主義からの脱皮をどうするか。

。他教科へどう関連させ転移させるか。

などいくつか考えられる。これらはさらに研究を深めていく必要がある。

（教諭・阿部嘉代子）